



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙ほか. 日本外科宝函 1942, 19(1)

ISSUE DATE:

1942-01-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/205288>

RIGHT:

ARCHIV
FÜR
JAPANISCHE CHIRURGIE

XIX. BAND, 1942

日本外科寶函

第 19 卷

昭和17年



INOKO-ITO-VEREIN,
KAISERLICHE CHIRURGISCHE UNIVERSITAETSKLINIK,
KYOTO, JAPAN.

京都帝國大學醫學部外科學教室內

日本外科寶函編輯室

(猪子・伊藤兩教授記念會)

日本外科實函 第19卷 (昭和17年)

總 目 次

原 著

腦下垂體ト其附近ノ外科……………荒 木 千 里 (1)

皮膚ニ於ケル抗體ノ產生

第1報 腸窒扶斯菌_Lコクチゲン⁷軟膏貼用局所皮内ニ於ケル各種抗
體ノ產生ニ就テ……………石 野 琢 二 郎 (21)

第2報 腸窒扶斯菌_Lコクチゲン⁷軟膏貼用時間ニヨル局所皮内產生
各種抗體ノ消長……………石 野 琢 二 郎 (54)

第3報 腸窒扶斯菌_Lコクチゲン⁷軟膏貼用局所皮内ニ同名補體結合
物質ハ產生セラルルヤ……………石 野 琢 二 郎 (65)

第4報 免疫元軟膏ヲ以テ82日以前ニ處置セラレタリシ局所皮膚ニ於
ケル各種抗體ノ増産ヲ指標トセル同名既往反應ニ就テ……………石 野 琢 二 郎 (69)

第5報 同名既往反應ニ際シ65日以前ノ免疫局所皮膚ヨリ血中ヘ動
員供給セラルル補體結合性抗體ノ數量ニ就テ……………石 野 琢 二 郎 (80)

第6報 經皮免疫ノ臨床的經驗……………石 野 琢 二 郎 (93)

感染ニ對スル_L線照射治療豫防法ノ實驗的基礎

第1報 軟_L線照射健常局所皮内ニ於ケル抗黃色葡萄狀球菌_Lオプ
ソニン⁷ノ増強……………廖 一 雄 (101)

第2報 硬_L線照射健常局所皮内ニ於ケル抗黃色葡萄狀球菌_Lオプ
ソニン⁷ノ増強……………廖 一 雄 (121)

第3報 最大ノ皮内產生_Lオプソニン⁷ノ持續ヲ目的トスル_L線再照
射法ノ研究……………廖 一 雄 (127)

第4報 皮内產生最大_Lオプソニン⁷ヲ指標トスル照射_L線強度(r/Min.)
ノ研究……………廖 一 雄 (131)

第5報 _L線照射ニ依ル局所皮内ノ_Lオプソニン⁷產生ハ如何ナル細
胞ノ作用ニ歸スルヤ……………廖 一 雄 (134)

第6報 _L線照射ニ依ル局所皮内產生_Lオプソニン⁷ノ菌種族固有性
ノ問題……………廖 一 雄 (137)

第7報 _L線照射ニ依ル局所性骨髓内_Lオプソニン⁷產生ニ就テ

附 レ線照射線維内及ビ其ノ周圍ニ於ケル皮内_Lオプソニン⁷

ノ吟味……………廖 一 雄 (143)

第8報 局所皮膚_L線照射ニ依ル血中_Lオプソニン⁷ノ推移ニ

就テ……………廖 一 雄 (148)

第9報 局所皮膚_L線照射動物ノ血中ニ於ケル_Lオプソニン⁷ノ推移

ニ就テ……………廖 一 雄 (154)

第10報 レ線照射皮膚局所ヨリスル_Lオプソニン⁷ノ血中ヘノ供給ニ

就テ——全篇ノ總括……………廖 一 雄 (158)

骨髓ノ免疫ニ就テ

第1報 局所骨髓中ニ最大_Lオプソニン⁷量ヲ產生セシムルニ要スル

_Lコクチゲン⁷量及ビ經過時間……………藤 岡 十 郎 (169)

第2報 黃色葡萄狀球菌_Lコクチゲン⁷ノ局所骨髓内或ハ血行内注射

ニ依ル局所骨髓内特殊_Lオプソニン⁷ノ增強……………藤 岡 十 郎 (184)

第3報 同一同量ノ黃色葡萄狀球菌_Lコクチゲン⁷ヲ或ハ靜脈内、或ハ骨髓内ヘ注

入シタル場合ニ於ケル血清中_Lオプソニン⁷ノ產生程度……………藤 岡 十 郎 (192)

第4報 免疫元ノ骨髓内注入ニ依ル血中增強抗體ノ生産

母地……………藤 岡 十 郎 (199)

第5報 骨髓ト骨膜トノ免疫學上ノ關係……………藤 岡 十 郎 (204)

第6報 骨髓免疫ニ於ケル既往反應……………藤 岡 十 郎 (211)

第7報 骨髓免疫ニ於ケル各種免疫元ノ效果ノ比較……………藤 岡 十 郎 (227)

保存血輸血ノ臨床的經驗

第3編 氷室・室溫並ニ 35°C 保存血輸血ノ

血液所見ニ及ボス影響…………… $\left\{ \begin{array}{l} \text{竹下篤夫} \\ \text{大橋義之} \\ \text{須古明弘} \\ \text{長谷正弘} \end{array} \right. \begin{array}{l} \text{合屋末千代} \\ \text{李祐吉} \\ \text{村上勉} \end{array} (235)$

沃度油腦室撮影法

II. 腦腫瘍ニ於ケル沃度油腦室像……………淺 野 芳 登 (273)

組織培養法ニ依ル_Lワクチン⁷ト_Lコクチゲン⁷トノ抗元能働力ノ

比較……………武 安 俊 助 (357)

Virchow 氏淋巴結節ニ就テ……………林 義 之 (378)

種々ナル腦疾患特ニ腦腫瘍ニ於ケル血糖調節ノ變化

第1編 臨床例ニ於ケル檢索……………松 田 昌 二 (423)

膿胸ノ電氣心働圖ニ及ボス影響ニ就テノ實驗的研究

第1報 醗膿菌性膿胸ノ影響……………横 田 清 雄 (458)

第2報 滅菌流動「パラフィン」ヲ胸腔内ニ注入セル場合ノ電氣心働

圖ノ變化ニ就テ……………横 田 清 雄 (498)

第3報 醗酵菌性膿胸ノ胸腔内滯溜膿ヨリ作成セル無菌的膿清ヲ靜

脈内ニ注入セル場合ニ於ケル電氣心働圖ノ變化ニ就テ……………横 田 清 雄 (515)

第4報 「テレピン」油性膿胸ノ影響……………横 田 清 雄 (520)

淋巴腺ニ於ケル抗體ノ產生

第1報 軟膏免疫法ニ於ケル各種組織、特ニ淋巴腺内特殊「オプソ

ニン」產生程度……………武 安 俊 助 (557)

第2報 免疫元軟膏ノ塗擦時間ト皮膚及ビ配下淋巴腺内ニ產生セラルル

「オプソニン」量トノ關係ニ就テ—好適塗擦時間ノ研究……………武 安 俊 助 (571)

第3報 同一同量ノ免疫元ヲ以テセル皮内注射ト軟膏免疫トニ於ケル局所皮

膚及ビ配下淋巴腺ノ特殊「オプソニン」產生程度ノ比較……………武 安 俊 助 (576)

第4報 免疫元ノ皮内注射法ニ依ル各種組織乃至臟器内特殊「オプ

ソニン」產生程度——注射免疫ト軟膏免疫トノ差別……………武 安 俊 助 (580)

第5報 下肢ノ感染ニ於ケル膝關節内淋巴腺ノ機能ニ就テ……………武 安 俊 助 (586)

經氣道免疫ノ本態ニ關スル實驗的研究

第1報 經氣道免疫ニ依ル肺實質及ビ肺肋膜内増容素ノ產生並ニ其

ノ好適免疫元量ニ就テ……………苧 坂 直 彦 (591)

第2報 經氣道免疫ニ依ル肺實質、肺肋膜及ビ胸壁肋膜ニ於ケル増

容素ノ產生及ビ其ノ時間的推移……………苧 坂 直 彦 (607)

第3報 經氣道免疫ニ依ル血中増容素ノ產生及ビ其ノ時間的推移ニ

就テ……………苧 坂 直 彦 (626)

第4報 經氣道免疫ニ於テ胸管結紮ガ血中増容素產生ニ及ボス

影響……………苧 坂 直 彦 (630)

第5報 肺臓ノ「コカイン」麻痺ガ肺實質内及ビ肺肋膜増容素產生ニ

及ボス影響……………苧 坂 直 彦 (635)

第6報 經氣道免疫後微量免疫元ノ經氣道再注入ニ依ル血中増容素

產生ノ推移……………苧 坂 直 彦 (639)

第7報 經氣道免疫後微量免疫元ノ經氣道再注入ニ依ル肺實質内増容

素產生ノ推移……………苧 坂 直 彦 (643)

第8報 經靜脈免疫後微量免疫元ヲ經氣道一側肺注入ニ依ル肺實質

内増容素ノ產生……………苧 坂 直 彦 (648)

腦下垂體後葉「ホルモン」ノ分泌経路ニ關スル實驗的研究……………森 欣 一 (658)

腦疾患特＝腦腫瘍＝於ケル腦脊髄液内腦下垂體後葉「ホルモン」ノ變化

＝就テ……………森 欣 一 (671)

經口免疫ノ研究

第1報 經口免疫法＝於ケル所謂感作劑トシテノ牛膽ノ效果＝

就テ……………高 橋 幹 夫 (717)

第2報 經口免疫＝於ケル所謂感作劑トシテノ揮發性芥子油ノ效果

＝就テ……………高 橋 幹 夫 (739)

第3報 經口免疫＝於ケル所謂感作劑トシテノ炭酸「ナトリウム」ノ

效果＝就テ……………高 橋 幹 夫 (754)

第4報 經口免疫＝於ケル血中增強抗体ノ生産母地＝

就テ……………高 橋 幹 夫 (767)

胃腸吻合術並＝空腸瘻設置時＝於ケル消化作用ノ研究

(消化管各部位＝注入セラレタル各種催膽劑ノ膽汁排出＝及ボス影響＝就テ)

第1報 經口の催膽劑投與ノ膽汁排出＝及ボス影響＝

就テ……………金 澤 紀 四 五 郎 (777)

第2報 胃管＝ヨル催膽劑投與ノ膽汁排出＝及ボス影響…金 澤 紀 四 五 郎 (788)

第3報 十二指腸内催膽劑投與ノ膽汁排出＝及ボス影響＝

就テ……………金 澤 紀 四 五 郎 (795)

第4報 空腸内催膽劑投與ノ膽汁排出＝及ボス影響＝

就テ……………金 澤 紀 四 五 郎 (803)

第5報 廻腸内催膽劑投與ノ膽汁排出＝及ボス影響＝

就テ……………金 澤 紀 四 五 郎 (813)

第6報 盲腸及直腸内催膽劑投與ノ膽汁排出＝及ボス影響＝

就テ……………金 澤 紀 四 五 郎 (822)

第7報 膽汁ノ十二指腸内排出ト膽嚢トノ關係＝就テ…………金 澤 紀 四 五 郎 (830)

第8報 植物性神經毒ノ十二指腸内膽汁排出＝及ボス

影響……………金 澤 紀 四 五 郎 (835)

第9報 植物性神經切除ノ膽汁十二指腸内排出＝及ボス影響＝

就テ……………金 澤 紀 四 五 郎 (844)

種々ナル腦疾患、特＝腦腫瘍＝於ケル血糖調節ノ變化

第2編 實驗的研究……………松 田 昌 二 (853)

精製實扶の里「アナトキシン」(傳研實扶の里豫防液)ノ研究

第1報 體重減少及ビ肺・肝出血ヲ指標トスル生・煮精製實扶の里

- 「アナトキシン」皮下注射ニヨル毒力ノ比較……………姫 野 純 一 (915)
- 第2報 血中白血球數ノ動搖ニ立脚スル生・煮精製實扶の里「アナトキシン」皮下注射ニヨル毒力ノ比較……………姫 野 純 一 (930)
- 第3報 生・煮精製實扶の里「アナトキシン」皮下注射ニヨル海猿體重増減率及ビ自働免疫程度ノ比較……………姫 野 純 一 (933)
- 第4報 各免疫元ノ達成シ得ル極限の最大免疫效果(シツク反應)ニ立脚スル原生及ビ煮精製實扶の里「アナトキシン」ノ皮下注射ニ依ル效力毒力ノ比較——「イムペヂン」學說ノ要求……………姫 野 純 一 (939)
- 第5報 生・煮「アナトキシン」軟膏塗擦貼用局所皮膚免疫程度ノシツク反應ニ依ル比較……………姫 野 純 一 (947)
- 第6報 軟膏免疫法ト皮下注射免疫法トニ於ケル生・煮精製實扶の里「アナトキシン」ノ毒力效力ノ比較……………姫 野 純 一 (953)
- 特殊性免疫ト非特殊性免疫トノ關聯ニ就テ
- 第1報 粘液性連鎖狀球菌「ワクチン」軟膏皮膚ニ於ケル同名及ビ異名「オプソン」ノ並行的產生……………岸 本 秀 雄 (965)
- 第2報 大腸菌「ワクチン」軟膏皮膚ニ於ケル同名及ビ異名「オプソン」ノ並行的產生……………岸 本 秀 雄 (973)
- 第3報 黃色葡萄狀球菌「ワクチン」軟膏皮膚ニ於ケル同名及ビ異名「オプソン」ノ並行的產生……………岸 本 秀 雄 (975)
- 第4報 異種免疫元間ニ於ケル特殊性免疫ト非特殊性免疫トノ相互關係ノ吟味——附. 結核菌免疫元 (BCG) ノ固有性……………岸 本 秀 雄 (980)
- 第5報 軟膏免疫操作完了後血清ノ同名及ビ異名「オプソン」ノ並行的推移ニ就テ——附. 抗體感應說……………岸 本 秀 雄 (988)
- 第6報 軟膏免疫家兎ニ於ケル既往反應性同名及ビ異名血中動員「オプソン」ノ並行的推移ニ就テ——附. 類族性ヲ有スル各種免疫元ノ免疫元性能働力ノ比較方針……………岸 本 秀 雄 (995)
- 煮沸免疫元ノ基液ハ生理的食鹽水ト蒸餾水ト何レヲ好適ト爲スカ
- 第1報 生理的食鹽水或ハ蒸餾水ヲ基液トスル煮沸免疫元ヲ以テノ軟膏免疫法ニ依ル局所皮内「オプソン」產生程度ノ比較……………岸 本 秀 雄 (1007)
- 第2報 蒸餾水或ハ生理的食鹽水ヲ基液トセル煮沸免疫元ノ軟膏ニ依ル血中暫定の抗體量ノ比較……………岸 本 秀 雄 (1010)
- 第3報 軟膏免疫後100日目ニ於ケル同名既往反應ニヨル血中増強「オプソン」量ヲ指標トセル蒸餾水煮沸免疫元ト食鹽水煮沸免疫

元トノ效果ノ比較……………	岸 本 秀 雄	(1014)
腦腫瘍ニ於ケル「コレステリン」代謝……………	野 間 勇	(1019)
全十二指腸兩端閉塞症ニ關スル實驗的研究		
第3報 種々ナル生命條件ノ實驗的吟味ニ就テ……………	圓 山 一 郎	(1027)
腦下垂體前葉特ニ人腦下垂體「クロモフォーブ」腺腫組織ノ內分泌學的研究		
第1報 前葉1回移植ニヨル內分泌學的效果……………	吉 岡 忠 夫	(1045)
第2報 牛新鮮腦下垂體前葉反覆移植ニヨル內分泌學的效果……………	吉 岡 忠 夫	(1058)
第3報 牛新鮮腦下垂體前葉反覆移植ガ過成熟雌性「ラツテ」ニ及ボス影響……………	吉 岡 忠 夫	(1065)
第4報 腦下垂體前葉1回移植ノ雌性幼若「ラツテ」ニ及ボス影響……………	吉 岡 忠 夫	(1074)
第5報 人腦下垂體「クロモフォーブ」腺腫組織ノ內分泌學的研究……………	吉 岡 忠 夫	(1079)

臨 床

一種ノ血管運動營養神經性疾患ノ1治驗例……………	金 澤 紀 四 五 郎	(386)
癌トシテ再發セル良性腮性囊腫……………	吉 井 達 郎	(391)
根型全上膊神經叢麻痺ニ合併セル劇烈ナル神經痛ノ手術治驗例……………	横 山 育 三	(401)
膀胱造影ニ依ル骨盤腔膿瘍ノ診斷……………	石 野 琢 二 郎	(405)
頭蓋骨内ニ發育セル癌細胞ノ頭蓋内ヘ向ツテノ浸潤態度……………	横 山 育 三	(531)
廻腸憩室ヲ伴ヘル廻盲部腸軸捻轉症ノ1例……………	横 山 育 三	(535)
胃及十二指腸潰瘍ニ於ケル胃切除範圍ト遠隔成績トノ關係ニ就テ……………	副 島 謙	(541)
上顎竇蓄膿症手術後ニ來レル慢性側頭窩骨膜炎……………	白 石 貞 男	(548)
胃・十二指腸潰瘍穿孔ノ手術的療法ニ關スル臨床的觀察……………	副 島 謙	(683)
胃及十二指腸潰瘍ニ對スル外科的治療ノ適應症ニ就テ……………	副 島 謙	(693)
抗毒素血清ノ大量注射ニ依ル破傷風治驗例ニ就テ……………	森 欣一, 松田孫一	(706)
副睪丸乳嘴腫ノ1例……………	西 本 通 憲	(883)
右肋骨竇壁ヨリ發生シ、頭蓋腔内ニ發育シタル骨軟骨腫ノ1例……………	橋 平 博	(887)

後腹膜腔ヨリ發生セル細網肉腫(Reticulosarcom)ノ2例	金澤紀四五郎	(893)
斷層撮影ニヨル重複撮影法	藤浪修一, 房岡隆三	(898)
斷層撮影法ヲ以テ追究セル結核性肺空洞ニ對スル横隔膜神經捻除術ノ		
效果ニ就テ	青木堅太郎	(1095)
胸圍結核ノ成因竝ニ根治手術術式ニ就テ	竹内信一	(1101)
レ線照射ノ植皮(自家移植)ニ及ボス效果	藤浪修一, 松木軍太	(1115)

臨床レ線學

外科的疾患ノレ線診斷トソノ手術所見(5)	藤浪修一	(527)
----------------------	------	-------

小臨床

直腸内大量糞便鬱滯ヲ伴ヘル廻盲癌「イレウス」	本庶英夫	(1093)
------------------------	------	--------

臨床瑣談

濃厚ナル家族歴ヲ示セル Recklinghausen 氏病	森欣一	(259)
血友病性關節症ノ1例	菅野藤夫	(259)

臨床診斷ト手術所見

輸卵管出血ニ於ケル還血例	房岡隆三	(261)
膽石症ニヨル瀑狀胃追加例	森欣一	(262)
肝臟膿瘍ノ1例	星野列	(263)
甲狀腺炎2例ニ就テ	石川孝明	(265)
鱗屑癬性關節症	王和成	(268)

學會

第54回近畿外科學會(「ビタミン」ト酵素, 其他35編)		(901)
------------------------------	--	-------

雜誌

京都外科集談會12月例會		(270)
京都外科集談會1月例會		(270)

鷺尾博士ヨリ鳥潟名譽教授ヘノ書信	(418)
京都外科集談會 2 月例会	(421)
京都外科集談會 3 月例会	(422)
京都外科集談會 4 月例会	(555)
京都外科集談會 5 月例会	(714)
京都外科集談會 6 月例会	(714)
京都外科集談會 9 月例会	(1126)
京都外科集談會 10 月例会	(1126)
京都外科集談會 11 月例会	(1126)

人名索引

太字……原著. 「イタリック」……臨床, 臨床と線學, 小臨床. 普通字……

臨床瑣談, 臨床診斷ト手術所見. ()……學會. ~~~~~雜纂.

A

相 木 孝 行 (911)
赤 松 松 鶴 (912)
秋 山 卓 三 (904)
青 木 堅 太 郎 (906), 1095
荒 木 千 里 1, (903), (904)
荒 瀬 進 (909)
淺 野 芳 登 273

B

坊 岡 富 士 夫 (911)

G

吳 由 裳 (911)
合 屋 末 千 代 235

H

濱 崎 汀 (902)
長 谷 弘 235
長 谷 川 恒 夫 (906)
橋 平 博 887
橋 本 健 (909)
林 高 夫 (905)
林 義 之 378
姫 野 純 一 915, 930, 939, 947, 953
本 庶 英 夫 1093
星 野 列 263
福 村 一 雄 (902)
福 島 信 子 (907)
房 岡 隆 三 261, 898
藤 浪 修 一 527, 898, 1115
藤 岡 十 郎 169, 184, 192, 199, 204, 211, 227
藤 田 小 五 郎 (906), (907), (911)

I

石 川 孝 明 265
石 野 琢 二 郎 21, 54, 65, 69, 80, 93, 405, (907)
伊 藤 榮 一 (902)
伊 藤 廉 (906), (911)
伊 藤 太 郎 (901), (908)

K

梶 浦 暉 一 (912)

金 澤 紀 四 五 郎 386, 777, 788, 795, 803,
813, 822, 830, 835, 844, 893
河 村 謙 二 (902), (910), (911)
香 山 聖 進 (905)
菊 地 梅 太 郎 906
岸 本 秀 雄 965, 973, 975, 980, 988,
995, 1007, 1010, 1014
近 藤 銳 矢 (904)

M

圓 山 一 郎 1027
松 田 孫 一 706
松 田 昌 二 423, 853
松 木 軍 太 1115
三 羽 兼 義 (912)
水 野 祥 太 郎 (902), (912)
森 欣 一 259, 262, 658, 671, 706
盛 彌 壽 男 (909)
村 山 勉 235

N

中 江 四 郎 (908)
中 村 一 郎 (911)
西 本 通 憲 883
野 田 常 義 (903)
野 間 勇 1019
布 留 文 夫 (909)

O

王 和 成 268
大 橋 義 之 235
岡 崎 晃 (901), (904)
岡 崎 大 治 男 (912)
鬼 頭 阿 佐 夫 (906)
大 野 良 藏 (907), (911)
亭 坂 直 彦 591, 607, 626, 630,
635, 639, 643, 648
小 澤 凱 夫 (906)

R

李 祐 吉 235

廖 一 雄	101, 121, 127, 131, 134, 137, 143, 148, 154, 158	武 安 俊 助	357, 557, 571, 576, 580, 586
	S	田 村 春 雄	(902)
清 英 夫	(901)	俵 一 德	(907)
新 谷 在 吉	(910)	陳 春 財	(902)
白 石 貞 男	548	富 井 眞 英	(907)
副 島 謙	541, 683, 693, (908), (910)	豐 平 稔	(910)
菅 野 藤 夫	259	角 田 英	(901)
須 古 明 正 夫	235		U
鈴 木 重 夫	912	內 田 金 次 郎	(902)
	T		W
多 田 潤 也	(901)	鷺 尾 清 治	418
高 橋 幹 夫	717, 739, 754, 767		Y
竹 林 弘 夫	(904), (905), (907)	横 田 清 雄	458, 498, 515, 520
竹 下 篤 夫	235	横 山 育 三	401, 531, 535
武 內 清 一	(912)	横 山 哲 雄	(901)
竹 內 信 一	1101	吉 井 達 郎	391
		吉 岡 忠 夫	1045, 1098, 1065, 1074, 1079

物 件 索 引

太字……原著、「イタリック」……臨床、臨床と線學、小臨床、普通字……

臨床瑣談、臨床診斷ト手術所見、()……學會、雜纂

A

Acroasphyxia chronica	389
Acromio-mastoid line	404
adiposogenital dystrophy	2, 1020
アクロメガリー	429
鞍外腫瘍	305
壓迫示界法	1110
Arachnoiditis	10, 17
Astrocytom	302
「アトロピン」, 「アドレナリン」	838

B

Basal metabolism	4
BCG	
——ノ固有性	980
——菌染色法	982
抗——菌「オプソニン」	985
Billroth I ト Billroth II	547
Blood	
—— picture	4
—— sugar	6
膀胱	
——造影ト骨盤腔膿瘍	405
——造影劑	407
正常——像	408
小銃彈——内迷入	(912)
Braun 氏吻合術	686
ブルムベルグ氏症候	537

C

Cardiotonicus	15
cerebral arteriography	9
chromophobe adenomas	12

D

大脳	
——穹隆部腫瘍	279
——半球側方部腫瘍	287
——半球腫瘍ト血糖	430, 442
——半球萎縮性疾患ト血糖	435

第3 脳室

——後壁部腫瘍, ——内腫瘍	325
----------------	-----

第4 脳室

——内腫瘍	354
-------	-----

斷層撮影法	898, 1095
-------	-----------

大腸菌

——性膿胸	464
——「コクチゲン」	723
抗——「オプソニン」	977, 991
——「ワクチン」軟膏	973

電気心動圖

——採取方法	460
膿胸ト——	459, 498, 515, 520
——ノ P 波(膿胸)	489, 513
——ノ QRS 群(ク)	490, 511
——ノ (S-T) 波間異常(ク)	496
——ノ T 波(ク)	494, 513
胸腔内「パラフィン」注入ト——	498
大腸菌性膿胸ト——	515
靜脈内膿清注入ト——	515
肺炎菌性膿胸ト——	517
人型結核菌性膿胸ト——	518

Diabetes inspidus	3
-------------------	---

「ドグラス氏腔(膀胱造影ニ於ケル)」	408—416
--------------------	---------

動脈

動靜脈性——瘤	291
結節性——周圍炎	(911)

Druckbegrenzung	1110
-----------------	------

Dystrophia adiposogenitalis	2, 1020
-----------------------------	---------

E

「エンテロテラトーム」	(908)
-------------	-------

Ependymom	325, 354
-----------	----------

G

顔面神經

——麻痺	398
------	-----

癌

腮性——	400
頭蓋骨内——細胞	531
牛膽	723

凝集反應	
——検査法	724
凝集價	
——測定	360, 363
血中——	724, 725
凝集素	
——検査法	41
特殊——皮内產生	49, 72
培養臓器内——消長	360—
暫定的血中——(經口免疫)	768
「グリオーム」	280, 283, 295

H

肺	
——, 肋膜壓出液	600, 608
——, 肋膜増容素產生	635
——癌	(906)
——出血	923, 962
結核性——空洞	1095
——臓「コカイン」麻痺	635
肺炎菌	
——第Ⅰ型性膿胸	473
——煮沸免疫元軟膏	981
抗——「オプソニン」	984
破傷風	706
白血球	
鹽基性, 中性, 「エオジン」嗜好性——	247
實扶的里「アナトキシン」注射ト——	930
——過多	932
Hallux varus 位	387
壁愈	694
hemiparesis	2
皮下結締織	
——内產生抗體	89
皮膚	
——ノ抗體產生	39
——抗體出現度	50
被前處置——ノ抗體増産	99
——「ヒ線照射ト血中「オプソニン」	148
「ホルモン」	
排尿抑制——	661
腦下垂體後葉——	658, 671
腦下垂體前葉——	1047, 1079
Horner's Syndrom	2

補體結合性物質

——検査	43, 44
——產生	50, 65, 76
——ノ消長(軟膏貼用時間ニヨル)	64
——ノ血中動員	80

保存血

——輸血	235
——輸血ト血液所見	235
——輸血後ノ赤血球量	237
——輸血後ノ血色素量	245
——輸血後ノ白血球數, 種別	246

腹腔

——内洗滌	689
-------	-----

腹膜

胃潰瘍穿孔性急性——炎	(909)
穿孔性——炎	(911)

腹壁

——腐敗性炎症	(911)
術後進行性——壞疽	(911)

「フィラリア」

トレンデレンブルグ氏——摘出法	(906)
-----------------	-------

副睪丸乳嚢腫	883
--------	-----

副腎	1055, 1062, 1067, 1077, 1086
----	------------------------------

hydrocephalus	2
---------------	---

Hypophysis

——surgery	1
posterior lobe of ——	3
normal —— in operative field	14
hypophyseal tumor	1—17
hypothalamus	3

I

胃

瀑狀——(膽石症ニヨル)	262
——切除術	541, 685, 697, 705
——十二指腸潰瘍	541, 703
——潰瘍	693, (909)
——潰瘍開放性穿孔	(910)
——潰瘍穿孔	683
——潰瘍穿孔性急性腹膜炎	(909)
——腸吻合術	686, 779, 696, 1031, 1039
砂時計——	694
——内催膽劑投與ト胆汁排出	788
「イムベデン」	119, 397, 923, 946

——學說	358, 366, 938, 947
——トレ線	119
インシュリント血糖	452
Intermedin	661
イレウス	

單純性高位	1036
廻盲瘻	1093

意識

外科的——障礙	(903)
---------	-------

幽門

Eiselsberg ——贛置術	686, 703
——十二指腸狹窄	694
先天性——狹窄症	(908)

J

Jodipinöl	407
-----------	-----

K

感染トレ線照射	110
---------	-----

肝臓

——膿瘍	263
——腫瘍トレ線像	(907)
——出血	923, 962

廻腸内催膽劑投與ト胆汁排出	813
---------------	-----

潰瘍

肝胝性——	546, 694
胃——	693, (909)
胃十二指腸——	541, 703

關節症

血友病性——	259
肥大性骨——	(902)
鱗屑癬性——	263

還血

輸卵管出血ト——	261
----------	-----

頸

上深——淋巴結節	378
——部淋巴腺結核	(905)

血液

保存血輸血ト——所見	235
——有形成分	237

血清

レ線照射ト——反應	162
抗毒素——(破傷風)	706

血糖

腦腫瘍ト——	425, 853
--------	----------

健康人ト——調節	427
----------	-----

腦疾患々々ト——	429—
----------	------

大脳半球腫瘍ト——	430, 442
-----------	----------

腦下垂體腫瘍ト——	431, 443
-----------	----------

後頭蓋窩腫瘍ト——	432, 444
-----------	----------

大脳半球萎縮性疾患ト——	435
--------------	-----

眞性癲癇ト——	437, 447
---------	----------

慢性蜘蛛膜炎ト——	439, 448
-----------	----------

器質性癲癇ト——	447
----------	-----

——負荷方法	450
--------	-----

インシュリント——	452
-----------	-----

——試験	854
------	-----

血腫

硬膜外——	292
-------	-----

血管運動營養神經性疾患	386
-------------	-----

血友病性關節症	259
---------	-----

憩室

メツケル氏——	540
---------	-----

結核

——腫	286, 297, 338, 349
-----	--------------------

——性肺空洞	1095
--------	------

胸膈——	1101
------	------

結核菌

——(人型)性膿胸	479, 518
-----------	----------

——免疫元(BCG)ノ固有性	980
----------------	-----

氣道

經——免疫, 該好適免疫元量, 増容素	599
---------------------	-----

キモレニン	1030
-------	------

菌種族固有性

皮内產生レオブソニント——	137
---------------	-----

キモグラム(附圖)	852
-----------	-----

氣腹症	(907)
-----	-------

既往反應

同名及ビ異名——	
----------	--

..... 69, 80, 374, 769, 962, 998, 1000, 1014	
--	--

——ト血中動員補體結合性抗體	80
----------------	----

骨髓免疫ト——	211
---------	-----

——性血中動員レオブソニント	995
----------------	-----

骨

——軟骨腫	887
-------	-----

——新生能力(保存——)	(902)
--------------	-------

——筋肉内移植(保存——)	(902)
---------------	-------

肥大性——關節症	(902)
----------	-------

——疾患ト中胚葉組織	(902)
骨膜	
骨髓ト——(免疫學上)	204
「コクチゲン」——下注射法	205
慢性側頭窩——炎	548
——炎症腫瘤	553
骨髓	
頭蓋骨——炎	553
硬軟ニ線ト——	144
鋼線——内固定法	(902)
ニ線照射ト——内「オブソニン」	143
——ノ免疫, 「オブソニン」產生	180
——ト骨膜(免疫學上)	204
——免疫ト既往反應	211
——内免疫元注入ト全身性免疫	219
——内免疫元注入ト自働免疫	221
——免疫ト免疫元	227
骨盤腔	
膀胱造形ト——膿瘍	405
——膿瘍ト膀胱像	409
「コクチゲン」	
腸「チフス」菌——	358
腸「チフス」菌——軟膏	39, 54, 65
「オブソニン」產生ト——量, 時間	180
——骨膜下注射法	205
「ワクチン」ト——	357
鶏白痢菌——	358
連鎖狀球菌——	(418)
黃・葡・球菌——	184, 192
黃・葡・球菌——軟膏	594
黃・葡・球菌——軟膏免疫	989—1000
大腸菌——	723
植皮ト——軟膏	1124
甲状腺	
——ト腺下垂體移植	1055, 1063, 1071, 1078, 1088
——剔出	1019
——炎	265
「コレステリン」	
腦腫瘍ト——	1019
——測定法	1020
——「エステル」比率	1023
頭蓋内手術ト血清——量	1024
酵素(「リパーゼ」)	(901)

「コカイン」	
肺臓——麻痺	635
鹽酸——	935
交感神經	
兩側腰薦——切除術	390
——切斷	847
Kraniopharyngiom	305, 309, 320, 322
抗元	
——能働力	357—
抗毒素	
——血清(破傷風)	706
抗體	
皮内——產生	39, 54, 69, 952
皮膚——出現度	50
被前處置皮膚ノ——増産	69
血中動員補體結合性——	80
——ノ全身性移行	89
喰細胞ノ血中——含量調節作用	165
——ト淋巴管	369
細胞, 既往反應ト——	370
血中——	951, 967, 993
血中暫定的——	373, 1010
血中——生産母地	199
血中増強——ノ生産母地	767
淋巴腺内——產生	563
分極——	967
——ノ分極, 普遍性亢進	973
——感應説	988, 993
組織細胞内——	993
空腸	
術後——潰瘍	703
——瘻設置ト消化	779
——内催膽劑投與ト膽汁排出	803
蜘蛛膜	
慢性——炎ト血糖	439, 448
靴型	(912)
胸	
——管結紮	630
上部——廓筋無切斷成形術	(906)
——壁淋巴管系, 寒性膿瘍	1103
胸圍結核	
——ノ成因	1101
——ノ根治手術術式	1104

胸骨_Lカリエス¹ 1111

L

Lig. terminale 540

Locus minoris resistentiae 776

Luschka 氏孔 346

M

Magendie 氏孔 353

Magnus 懸吊法 663

メニンギオーム¹ 285, 306, 534

Melanosarkom 346

メツケル氏腔室 540

迷走神経

 兩側——横隔膜下切除 845

免疫

 喰細胞——學說(鳥瀉) 39, 372, 563

 淋巴系細胞——學說 967

 先天, 後天的自働—— 221, 225, 563, 933, 952

 後天的獲得—— 221, 225, 226

 自家他働性—— 629

 全身性(血行性)—— 219, 225

 經靜脈—— 653

 經氣道—— 599, 607, 625, 630, 653

 經皮(粘膜)性全身—— 89

 經皮——臨床例 83

 實扶の里經皮—— 953

 皮下注射—— 90, 953

 注射——ト軟膏 576, 580

 軟膏—— 90, 563, 953, 988, 995, 1008, 1014

 軟膏——發生附圖 92

 軟膏——法 563

 黃・葡・球菌_Lコクチゲン¹軟膏——

..... 989, 991, 996, 998, 1000

 ——獲得程度 725

 經口—— 723—775

 經口——ト牛膽 723, 736

 經口——ト揮發性芥子油 739, 750

 經口——ト炭酸_Lナトリウム¹ 754

 經口——ト刺戟劑 765

 經口——ト體重 736, 750

 皮膚——(實扶の里) 947

 ——ノ新見解, 疑問 224

 特殊性, 非特殊性—— 965, 980

免疫元

 ——骨髓内注入 199, 219, 221

 ——ノ攝取, 吸收 224

 ——軟膏好適塗擦時間 571

 ——皮内注射 576, 580

 經氣道免疫好適——量 599

 1 側肺經氣道——注入 600, 648

 ——經氣道再注入 639, 643

 類族性——能働力 995

 煮沸——ノ基液 1007

_Lモノチーテン¹

 ——並ニ移行型 249

Monro 氏孔ト側腦室 279

網狀織内被細胞系 397, 374, 376, 997, 1004

Morvan 氏病 389

Moljodol 407

モイレングラハト系数 780

盲腸内催膽劑投與ト膽汁排出 822

N

軟骨

 多發性内——腫 (902)

_Lナトリウム¹

 經口免疫ト炭酸—— 754

Nekrohormone 117

粘液性連鎖狀球菌

 ——_Lワクチン¹軟膏 967

 抗——_Lオブソニン¹ 975, 987, 987

鶏白痢菌

 ——_Lワクチン¹, _Lコクチゲン¹ 358

肉腫

 細網—— 893

囊腫

 良性膿性—— 391

_Lノイリノーム¹

..... 314

膿胸

 膿膿菌性—— 459

 大腸菌性—— 464, 515

 肺炎菌性—— 473, 517

 肺炎菌+黃・葡・球菌性—— 476

 人型結核菌性—— 479, 518

 人型結核菌+黃・葡・球菌性—— 482

_Lテレピン¹油性—— 520

 ——ト電氣心働圖 459

黄・葡・球菌性——	461
非溶血性連鎖状球菌性——	467
連鎖状球菌+黄・葡・球菌性——	470
膿清	
靜脈内——注入	515
腦	
——腫瘍ト沃度油腦室像	279
——腫瘍ト血糖	425, 853
——腫瘍トコレステリン代謝	1019
内——水腫	325
——疾患々者ト血糖	429
——脊髄液	661
——内ラミナリヤ挿入	855
腦橋	
——隅角部腫瘍	337
腦室	
沃度油——撮影法	279—
モルヨードル——撮影法	279
側——内腫瘍	279
側——穿刺	673
第3——	670
第3——内腫瘍	325
第4——	455
第4——内腫瘍	354
腦下垂體ト	668
腦下垂體	
——外科	1
——腫瘍	317
——腫瘍ト血糖	431, 443
——腺腫	317, 318
——電氣燒灼法	666
ト腦室	668
——後葉ホルモン	658, 971
——後葉ホルモント腦腫瘍	671
——前葉ホルモン	1047, 1079
——機能	3, 1020
——クロモフオーブ腺腫	1020, 1045, 1079
——エオジノフィール腺腫	1020
——前葉ト回移植	1049, 1074
——前葉移植ト體重	1049
——前葉移植ト卵巢	1054, 1076, 1086
——前葉移植ト副腎	1055, 1077, 1086
——前葉移植ト甲状腺	1055, 1078, 1088

——前葉移植ト骨骼系	1057
牛——反覆移植	1058, 1065
牛——反覆移植ト體重	1059, 1065
牛——反覆移植ト卵巢, 副腎	1062, 1067
牛——反覆移植ト甲状腺, 骨骼系	1063, 1071
——成長ホルモン	1079
——向生殖腺ホルモン	1079

尿

檢——法(角田)	(106)
----------	-------

O

Lオブソニン

血中——	148, 154, 165, 995—1014
血清中——	192, 988, 989, 991
——検査法	40, 111, 181, 192, 565, 581, 969
——係數	41, 970
レ線照射ト骨髓内——	143
レ線照射線錐ト皮内——	143, 145
レ線照射皮膚局所, 血中——	148, 154, 165
——ノ血中供給	158
抗黄・葡・球菌——	
.....	110, 121, 138, 975, 977, 983, 989, 991
抗粘・連・球菌——	975, 987, 989
抗大腸菌——	977, 991
抗溶血性連・球菌——	983
抗肺炎菌——	984
抗BCG菌——	985
特殊——皮内再產生	71
組織, 臓器内特殊——產生	563, 580
淋巴腺中特殊——產生	563, 571, 576
骨髓内特殊——増強	180, 184
——最大產生條件	140
皮内——產生	44—91, 101—134, 997—1008
——產生ト細胞	134
皮内——消長	62
皮内產生——ノ菌種族固有性	137
黄色葡萄状球菌	
——性膿胸	461
——コクチゲン	184, 192
——コクチゲン軟膏	564
——コクチゲン軟膏免疫	989—1000
——ワクチン軟膏	975
横隔膜神經	
——捻除術	1095

——捻除術ト線像	(906)
Oxytocin	661, 665, 679
——検査法	663, 666, 673

P

Papilledema	6
parasellar tumor	15, 17
「パラフィン」	
胸腔内——注入	498
Pericranitis	553
Pineal tumor	17
pituitary tumors	3, 13
pituitary adenomas	12, 14, 16, 17
Pituitrin	664

R

「ラミナリヤ」	
脳内——挿入	855
Recessus	
—— opticus et infundibuli	306—
—— suprapinealis	326—
—— lateralis	346—
連鎖状球菌	
非溶血性——性膿胸	467
Recklinghausen 氏病	259
Reticulosarcom	893
レ線	
軟——照射	110, 144
硬——照射	121, 144
感染ト——照射	110
——照射ト「オブソニン」	112
「イムペゲン」ト——	119
——再照射法	127
照射——強度 (r/min.)	131
——照射條件	138
——照射ト骨髓, 皮内「オブソニン」	143
——照射ト血中「オブソニン」	148, 154, 158, 165
——照射ノ局所性反應	161
——照射ノ全身(血清)性反應	192
組織細胞機能ト——照射	161
血清作用ト——照射	162
——照射ト植皮	1115
細胞賦活法トシテノ——照射	166
外科的疾患ト——診断	527
肝臓腫瘍ト——像	(907)

リットル氏病	(904)
鱗屑癬性關節症	263
淋巴	

——球	249
抗體ト——管	369
——系細胞	372, 947
Virchow 氏——結節, 上深頸——結節	378
淋巴腺	
——内抗體產生	563
膝窩窩——	586
頸部——結核	(905)

肋膜

肺, 肺——, 胸壁——壓出液	608
漏斗部眼窩法切斷法	662

「ロイマチス」

内臓——	(907)
------	-------

S

催膽劑ト膽汁排出	779—
細胞	
「オブソニン」產生ト——	134
組織——機能トレ線照射	161
——賦活法トシテノレ線照射	166
——ト抗體	370
淋巴系——(廣義喰細胞)	572, 647
細網織内被——	367, 374, 376, 967, 1004
食鹽水	
生理的——	689, 692, 1007—1014
生理的——皮下注射	1030, 1039
穿孔	
開放性——	684, 690
纖維腫	313
腺癌	534
シツク氏皮膚反應	934, 939, 947, 954, 962
四疊體腫瘍	333
膝窩窩淋巴腺	586
肢體不自由者(戦傷ニヨル)	(903)
心臓外傷	(906)
子宮圓靱帶靜脈瘤	(912)
神經	
血管運動榮養——性疾患	386
兩側腰薦交感——切除術	390
顔面——麻痺	398
根型全上膊——叢麻痺	401

植物——毒	835
植物性——切除ト胆汁排出	844
聽——腫瘍	338, 341, 342, 345
Skull	6
Spongioblastoma polare	333, 334
Sylvius 導水管	279—
Surgery of Hypophyseal Region	1
Sugiuron	407
脾臓	
——頭部腫瘍	527
——腫瘍	530
水腫	
内臓——	325
腫瘤	
骨膜炎性——	553
松葉腺	
——腫瘍	325, 329
——側方部腫瘍	330
小腦	
——腦橋四角部腫瘍	337
——腫瘍	349
——蟲部腫瘍	353
植皮(自家移植)	
——トレ線照射	1115
レ線照射肉芽面へ——	1117, 1121
レ線照射皮膚——ト照射時間, 量	1119
——ト「コクチゲン」軟膏	1124
嗅細胞	
——免疫學說(鳥瀉)	39, 372, 563
廣義——	372, 563, 638, 967, 994
廣義——ノ血中抗體量調節作用	165
猩紅熱	(418)
輸膽管	
永久性——瘻	780
側鎖説	993
側頭窩	
慢性——骨膜炎	548
T	
丹毒	(418)
膽	
——石症ニヨル瀑狀胃	262
——囊	830
——囊管結紮	831, 832

——囊炎	(907)
胆汁排出	
催膽劑ト——	779—
胃内投與ニヨル——	788
空腸内投與ニヨル——	803
廻腸内投與ニヨル——	813
盲, 直腸内投與ニヨル——	822
十二指腸内投與ニヨル	830, 835, 844
空腹ト——	781
植物神經毒ト——	835
「アトロピン」ト——	838
「アドレナリン」ト——	840
植物性神經切除ト——	844
癩病	
眞性——ト血糖	437, 447
器質性——ト血糖	447
「テレピン」油性膿胸	520
適應症	
社會的——(胃, 十二指腸潰瘍)	704
腔脂膏	1074
腸	
——管切除	1032, 1040
——管曠置手術	768
——管輸送能	(908)
結節性動脈周圍炎ト——穿孔	(911)
廻盲部——軸捻轉症	535
——瘻	1034
腸閉塞	
單純性高位——症	1036
腸「チフス」菌	
——「ワクチン」	358
——「コクチゲン」	43, 358
——「コクチゲン」軟膏	39, 54, 65
——「コクチゲン」軟膏貼用ト皮内抗體	39, 54, 61
直腸	
——内催膽劑投與ト胆汁排出	822
重複撮影法(斷層法ニヨル)	898
聽神經腫瘍	338, 341, 342, 345
著膿症	
上顎竇——手術	548
椎間板後方脫出症	(905)
中胚葉組織	(902)
蟲垂	

- 炎 (911)
- 炎手術後腹壁壞疽 (911)

頭

- 頂葉腫瘍 294
- 後——下穿刺 673, 712
- 鳥瀉免疫學說 39, 372, 563
- 「トキシノイド」 923

土耳其鞍

- 前方ノ腫瘍 305
- 前側方ノ腫瘍 309
- 側方ノ腫瘍 313
- 附近頭蓋底腫瘍 322

糖

- 新陳代謝 425
- 中樞性——調節 440
- transsphenoidal approach 13
- transfrontal approach, craniotomy 13
- Tuber cinereum 1020

U

- Umbrathor 407

V

- Vasopressin 661
- Ventriculography 9
- Visualization of basilar cisterns 9
- Virchow 氏淋巴結節 378
- 「グイタミン」
- ト酵素 (901)

W

- Water metabolism 3
- 「ワクチン」ト「コグチゲン」比較 357

X

- X-ray picture of the Skull 6

Y

矢狀竇

- 外腫瘍(前頭葉ニ於ケル) 280
- 外腫瘍(運動域ニ於ケル) 283
- 外腫瘍(知覺域ニ於ケル) 286

溶菌素

- 検査法 42
- 皮内特殊——產生 49, 62, 74

沃度油腦室

- 撮影法 279
- 像ト腦腫瘍 279

- 腰椎穿刺 673

輸血

- 保存血—— 235
- 保存血——ト血液有形成分 237—

輸卵管

- 出血ト還血 261

Z

- 人工氣腹法 529

- Zellzerfallhormone 117

質扶の里

- 「アナトキシン」 923—953
- 「アナトキシン」軟膏 947, 954
- 「アナトキシン」皮下注射 923, 930, 933
- 傳研——豫防液 923
- 經皮免疫 953

頭蓋

- 底腫瘍 322
- 内手術ト血清「コレステリン」 1024
- 骨内癌細胞浸潤態度 531
- 骨骨髓炎 553
- 後——窩腫瘍ト血糖 432, 444
- 腔内骨軟骨腫 887

前頭葉

- 腫瘍 287
- 頭頂葉腫瘍 290

靜脈瘤

- 子宮圓韌帶—— (912)

- 上顎竇蓄膿症手術 548

- 上膊神經叢麻痺 401

増容反應

- 検査法 601, 608, 628, 631

増容素

- 検査法 41
- 皮内特殊——產生 49, 73
- 皮内——消長(軟膏貼用ニヨル) 63
- 經氣道免疫ト肺肋膜内—— 599
- 肺, 肋膜——產生 635
- 胸壁肋膜——產生 607
- 肺實質内——產生 607, 635, 643, 648
- 血中——產生 625, 630, 639

十二指腸

- 潰瘍 693, (909)
- 潰瘍穿孔 683, (910)

胃——潰瘍	699, 703	——內膽汁排出	830, 835, 844
胃——狹窄	694	全——兩端閉塞症	1027
永久性——瘻	779	全——兩端閉塞造設，胃腸吻合	1030
——內催膽劑投與↓膽汁排出	795	全——兩端切斷	1034

Inhaltsverzeichnis

(Ausgegeben 1942)

ORIGINAL

Araki, C., Surgery of the Hypophyseal Region.	1
Isino, T., Ueber die Auslösung der Antikörper in und aus der Haut.	
I. Mitteilung. Nachweis der durch die Salbenimmunisierung in der Haut erzeugten gegen Typhusbazillen gerichteten Antikörper.	21
II. Mitteilung. Die Verschiebung des Gehaltes der neugebildeten Antikörper in der salbenimmunisierten Haut.	24
III. Mitteilung. Nachweis der Mobilisierung der komplementbindenden Substanz im Blute der Tiere mit der vor 56 Tagen salbenimmunisiert gewesenen Haut.	27
IV. Mitteilung. Ueber die Auslösung verschiedenartiger Antikörper in der vor 82 Tagen salbenimmunisiert gewesenen Haut; u.z. binnen 24 Stunden nach der i.v. Einverleibung der homologen Materia morbi.	29
V. Mitteilung. Erforschung über die Menge der von der vor 65 Tagen salbenimmunisiert gewesenen Haut aus in die allgemeine Blutbahn gelieferten komplementbindenden Antikörper; u.z. am 10. Tage nach dem i.v. Eindringen der Materia morbi.	32
VI. Mitteilung. Die Erzeugung der Antikörper in der salbenimmunisierten Haut der Menschen.	36
Ryo, K., Experimentelle Grundlage für die Röntgentherapie gegen Infektion.	
I. Mitteilung. Die Auslösung des gegen Staphylococcus pyogenes aureus gerichteten Opsonins in der röntgenbestrahlten Haut.	101
II. Mitteilung. Vergleich der weichen Strahlen mit den harten bei der Auslösung des Opsonins in der Haut.	102
III. Mitteilung. Ueber die wiederholte Bestrahlung zwecks längerer Erhaltung des erhöhten Opsoninindex in loco.	103
IV. Mitteilung. Die Erforschung über die optimale Röntgenintensität zum Herbeiführen der maximalen Zunahme des Opsoninindex in der Haut.	103
V. Mitteilung. Wo werden die Opsonine in der Haut bei der Röntgenbestrahlung erzeugt?	104
VI. Mitteilung. Zur Frage der Spezifität der in der röntgenbestrahlten Haut erzeugten Opsonine.	105
VII. Mitteilung. Ueber die Auslösung des Opsonins in verschiedenen Geweben betreffs die Strahlenkegel.	105
VIII. Mitteilung. Die Verschiebung der Opsonine im zirkulierenden Blute bei der Strahlung einer beliebigen Hautstelle.	107
IX. Mitteilung. Erforschung über die Lieferung (Generalisierung) der im röntgen-	

bestrahlten lokalen Gewebe erzeugten Antikörper in die allgemeine Blutzirkulation.....	108
Fujiwoka, J., Ueber die Immunisierung des Knochenmarks.	
I. Mitteilung. Die maximale Auslösung des spezifischen Opsonins im Knochenmark.....	169
II. Mitteilung. Vergleich der i.v. Injektion des Immunogens mit der direkten intramyelaren betreffend die Immunisierung des Knochenmarks eines Knochens.	170
III. Mitteilung. Ueber die Menge des im Blute auftretenden Opsonins bei der i.v. bzw. der intramyelaren Einspritzung desselben Immunogens in derselben Dosis.	171
IV. Mitteilung. Ueber die Bildungsstätte der im Blute nachweisbaren Antikörper bei der intramyelaren Injektion des Immunogens.....	172
V. Mitteilung. Das Verhalten vom Periost bei der intramyelaren Injektion des Immunogens.	172
VI. Mitteilung. Nachweis des durch die immunisatorische Vorbehandlung des Knochenmarks eines beliebigen Knochens aktiv erworbenen lokalen und allgemeinen Immunität.	174
VII. Mitteilung. Vergleich der verschiedenen Immunogenarten bei der Auslösung des homologen Opsonins im Knochenmark durch ihre intramyelare Injektion.	178
Takeshita, B., Goya, S., Ohashi, Y., Ri, Y., Suko, A., Murayama, T., Nagatani, H., Die klinischen Erfahrungen bei der Transfusion des konservierten Blutes. III. Mitteilung. Einfluss der Transfusion des im Eisschrank bei Zimmertemperatur und bei 35°C konservierten Blutes auf die Blutbefund.	235
Asano, Y., Erfahrungen über die Jodölventrikulographie.	
II. Mitteilung. Jodölventrikulogramm bei Hirntumoren.....	273
Takeyasu, S., Vergleich der Vakzinen mit den korrespondierenden Koktigenen bei ihrer immunogenen Avidität; u.z. im Licht der Gewebszüchtung.	357
Hayashi, Y., Über den Virchowschen Lymphknoten.	378
Kanazawa, K., An Unusual Case of Trophoneurotic Gangrene.	386
Yoshii, T., Recurring Carcinoma Five Years after the Removal of Benign Branchiogenic Cyst.....	391
Yokoyama, I., Die operativ Behandlung der heftigen neuralgischen Schmerzen bei der radikulären Verletzung des Plexus brachialis.	401
Isino, T., Urocystographische Diagnose der Beckenabszesse.	405
Matuda, M., Blood-sugar Regulation in Brain Tumors.	
I. Studies in Patients.....	423
Yokota, K., Experimentelle Untersuchungen über die Beeinflussung der Brustfell- eiterung auf das Elektrokardiogramm.....	457
Yokoyama, I., Spreading of Carcinoma Cells through the Dura	531
Yokoyama, I., Volvulus des Ileocecalteiles mit Meckelschem Divertikel und	

Mesenterium ileo coli commune.	535
Soejima, Y. , Zur Ausdehnung der Resektion des Ulcusmagens.	541
Siraisi, S. , Chronic Inflammatory Tumor of the Temporal Fossa Following a Radical Operation for Empyema of Highmore	548
Takeyasu, S. , Ueber die Erzeugung der Antikörper in den Lymphdrüsen.	
I. Die Erzeugung des spezifischen Opsonins in verschiedenen Geweben, ins- besondere in den regionären Lymphdrüsen bei der Salbenimmunisierung der äusseren Haut.....	557
II. Das Verhalten der Einreibungszeit der Immunogensalbe zu den Mengen des in der Haut sowie in den regionären Lymphdrüsen ausgelösten Opsonins. ...	558
III. Der Unterschied zwischen der Injektionsimmunisierung und der Salbenim- munisierung in den sowohl in der Haut als auch in den regionären Lym- phdrüsen erzeugten Opsoninmengen.....	559
IV. Ueber die Verteilung der immunogenen Substanzen auf verschiedene Gewebe sowie Organe bei der Injektionsimmunisierung.—Zum weiteren Unterschiede zwischen der Injektionsimmunisierung und der Salbenimmunisierung.....	560
V. Ueber die Rolle der Popliteallymphdrüsen bei der Infektion des Unter- schenkels.	562
Osaka, N. , Studie über pertracheale Immunisierung.	
I. Die zur Erzeugung der jedesmaligen maximalen Volumininmenge in Lungen- parenchym und Pleura pulmonalis bei pertrachealer Immunisierung benötigte Colibazillen-Koktigenmenge.	591
II. Die zeitliche Verschiebung der Erzeugung des spezifischen Voluminins in Lungenparenchym, Pleura pulmonalis und costalis.	592
III. Die zeitliche Verschiebung der Erzeugung des spezifischen Voluminins im zirkulierenden Blute.	593
IV. Über den Einfluss der Unterbindung des Ductus thoracicus auf die Erzeugung des Voluminins im zirkulierenden Blute bei pertrachealer Immunisierung.....	594
V. Über den Einfluss der Cocainisierung der Lunge auf die Erzeugung des Voluminins in Lungenparenchym und Pleura pulmonalis bei pertrachealer Immunisierung.....	595
VI. Die anamnestiche Serumreaktion bei sekundärer pertrachealer Einspritzung des Antigens.....	596
VII. Die anamnestiche Lokalreaktion bei sekundärer pertrachealer Einspritzung des Antigens.....	597
VIII. Die Volumininerzeugung in der primär intravenös immunisierten Lunge durch sekundäre pertracheale Einspritzung des Antigens.....	598
Mori, K. , Experimentelle Forschungen über den Resorptionsweg der Hypophysen- hinterlappenhormone.	658

Mori, K., Ueber das Verhalten der Hypophysenhinterlappenhormone im Liquor cerebrospinalis bei verschiedenen Hirnkrankheiten, insbesondere bei Hirngeschwülsten.	671
Soejima, Y., Erfahrungen über die operative Behandlung der in die Bauchhöhle frei durchgebrochenen Magen- und Zwölffingerdarmgeschwüre.	683
Soejima, Y., Statische Betrachtungen zur operativen Behandlung des Magen- und Duodenalgeschwüres.	693
Takahashi, M., Erforschung über die orale Immunisierung.	
I. Ueber die Wirkung der Rindergalle als eines Reizmittels bei der oralen Immunisierung.	717
II. Ueber die Wirkung des Senföls als eines Reizmittels bei der oralen Immunisierung.	718
III. Ueber die Wirkung von Natrium carbonatum als eines Reizmittels bei der oralen Immunisierung.	719
IV. Zur Quelle der im Blutkreislaufe auftretenden Antikörper bei der enteralen Immunisierung.	720
Kanazawa, K., Effects of Cholagogues Introduced into Various Levels of the Digestive Tract upon the Discharge of Bile.	777
Kanazawa, K., Nervous Control of the Discharge of Bile.	834
Matuda, M., Blood Sugar Regulation in Brain Tumors.	
II. Experimental Studies.	853
Nisimoto, M., Papilloma of the Epididymis.	883
Hasihira, H., Osteochondroma Arising from the Ethmoid Cells and Extending into the Anterior Cranial Fossa.	887
Kanazawa, K., Zwei Fälle von retroperitonealem Retikulosarkom.	893
Fujinami, S. und Fusaoka, R., Ein neues radiographisches Verfahren als Massnahme bei der chirurgischen Kavernenbehandlung.	898
Himeno, J., Die Unterschiede zwischen dem unerhitzten und dem abgekochten Diphtherie-Anatoxin (-Toxoide) in einem chemisch rein dargestellten Zustande.	
I. Der Vergleich der Toxizität des originalen rein dargestellten Diphtherie-Anatoxins mit dem korrespondierenden abgekochten; u.z. auf Grund der dadurch erzeugten haemorrhagischen Herde bei Lungen- und Leberlappen.	915
II. Der Vergleich der Toxizität des originalen rein dargestellten Diphtherie-Anatoxins mit dem korrespondierenden abgekochten; u.z. auf Grund der Schwankung der Leukozytenzahl im Blute der Versuchsmerschweinchen. ...	916
III. Die Nebeneinanderstellung der Toxizität und der immunisatorischen Erfolge beim originalen unerhitzten bzw. abgekochten Diphtherie-Anatoxin; u.z. bei ihrer subkutanen Einspritzung.	917
IV. Der Vergleich des unerhitzten Diphtherie-Anatoxins in einem chemisch rein	

dargestellten Zustände mit dem korrespondierenden abgekochten; u.z. bei ihren durch subkutane Einverleibung noch erreichbaren maximalen immunisatorischen Erfolgen.	917
V. Der Vergleich des unerhitzten sowie des abgekochten Diphtherie-Anatoxins im rein dargestellten Zustände; u.z. bei der Salbenimmunisierung.	920
VI. Die Nebeneinanderstellung der Toxizität und der immunisatorischen Erfolge beim originalen unerhitzten bzw. dem abgekochten Diphtherie-Anatoxin im chemisch rein dargestellten Zustände; u. z. betreffend die Salbenimmunisierung.	920
Kisimoto, H., Ueber den Parallelismus der homologen und der heterologen Antikörperauslösung.	
I. Mitteilung.	965
II. Mitteilung.	965
III. Mitteilung.	965
IV. Mitteilung.	965
V. Mitteilung.	965
VI. Mitteilung.	966
Noma, I., Blood Cholesterol Level in Brain Tumors.	1019
Maruyama, I., Experimentelle Untersuchungen über die Ausschaltung des ganzen Duodenums durch beiderseitige Verschlüsse.	
III. Mitteilung: Untersuchungen über verschiedene Lebensbedingungen.	1027
Yosioka, T., Inner-sekretorische Untersuchungen des normalen sowie des adenomatösen Hypophysenvorderlappens.	
I. Experiment.	1045
II. Experiment.	1045
III. Experiment.	1046
IV. Experiment.	1046
V. Experiment.	1047
Aoki, K., Über die mit dem Tomographen verfolgte der Phrenicusexhairese bei tuberkulöser Lungenkaverne.	1095
Takeuchi, S., Zur Entstehung und der Operation der Perikostaltuberkulose.	1101
Fujinami, S. und Matsuki, G., Die Erfolge der Röntgenbestrahlung bei der Auto-Epidermistransplantation.	1115

Sachregister (Band XIX, 1942)

〔本索引ハ歐文論文抄録ノミヨリ抄録ス〕

A

Achilles' reflex	386
Agglutinin	
ins Blut mobilisierten Antityphusbac.	772
Agglutinititer	
maximale —	357
max. Zunahme d. —s.	719
aktiv erworbene Immunität	174
Anterior Cranial Fossa	887
Antigen	
pertrachealer Einspritzung des —s.	596, 597, 598
Antikörper	
gegen Typhusbac. gerichteten —	21
neugebildeten —	24
— auslösung	21, 29, 965
in die Blutbahn gelieferten —	32
— in der Menschenhaut	36
Lieferung der —	108
— in den Lymphdrüsen	557
im Blutkreislaufe auftretenden —	720
max. Mobilisierung d. —s	772
homo- u. hetero-loge —	965
anamnestische Localreaktion u. Serumreaktion	596, 597
anesthesia of both feet	386
Auto-Epidermistransplantation	1115

B

Bauchhöhle	
gründliche Ausspülung d. —	683
Beckenabscess	405
BCG	966
Bile	
cholagogues and discharge of —	777
nervous control of discharge of —	834
Bildungsstätte	
— des Opsonins	104
— des Antikörpers	172
Blut	

konserviertes — u. —befund	235
Blood	
—cholesterol Level	1019
—sugar in Brain tumors	423, 853
—sugar regulating center	424
Brain tumors	423, 1019
Brustfelleiterung u. Elektrokardiogramm	458
branchiogenic Cyst	391

C

cerebral atrophy	424
------------------------	-----

D

Ductus thoracicus	378
Unterbindung d. — u. Voluminin	594
Douglas's Raum	405
Diphtherie-Anatoxin	
unerhitzten u. abgekochten —	915
immunisator. Erfolge d. —s	917, 920
subkutanen Einspritzung d. —s	917
Duodenum	
Ausschaltung d. ganzen —s	1027

E

Empyema	
— of Antrum of Highmore	548
Epileptiker	672

F

Foramen Monroi	273
Füllungsmittel	
transurethrales —	405
fourth ventricle	424
Falte	
Kerkringsche —	536

H

Hallux varus position	386
Hirn	
—tumor	273
—geschwülst	671
Hypophysen	

—tumor.....	276
—hinterlappenhormon	658, 671
normale u. adenomatöse —vorderlappen....	1045
<i>Horner'sches</i> Syndrom	401

I

Impedin.....	357
—lehre (Torikata).....	919, 922
Immunogen	
Injektion des —s	170
Einreibungszeit der —salbe	558
Immunisierung	
— des Knochenmarks	169
pertracheale —,	591
orale —	717
enterale —	720
Injektions—	559, 560
intrakutane Injektions—.....	561

J

Jodölventrikulographie	273+
Jodmischung od. Jodnatriumlösung.....	405

K

Kleinhirn	
—tumor.....	278
—brückenwinkeltumor	277
Komplementbindende Substanz	27
Koktigen	
— von <i>Staphylococc. pyog. aureus</i>	557, 559, 562
Colibazillen—	591
Medium des —s	1007
Kavernen	
chirurgische —behandlung	898

L

Laparotomie	535
Laminektomie.....	401, 402
Lähmung d. l. Plex. brachialis	401
Liquor cerebrospinalis.....	658, 671
Lunge	
tuberkulöser —nkaverne	1095
Cocainsierung der —u. Voluminine	595
Ln. cervicalis profundus caudalis.....	378
Lig. terminale	536

Lymphknoten

<i>Virchow'sche</i> —	378
-----------------------------	-----

M

Magen

—resektion	541, 683
— u. Duodenal geschwür	683, 693
Massnahme (Radiogramm).....	898
<i>Meckel'sche</i> Divertikel.....	535
Mesenterium	
— ileo-coli commune	535
<i>Meulengracht</i> -index.....	777
Moljodölventrikulographie.....	273

N

<i>Nelaton's</i> Katheter	405
Nerventransplantation.....	401
Narbenexzision.....	401
Natrium carbonatum.....	719

O

Opsonin

gerichtete — in der Haut.....	101—
Zunahme des —index	103
Auslösung des —s	105
Spezifität des —s	105
Verschiebung der —e im Blute	107
spezifischen —e	169, 557
im Blute auftretenden —e	171
homologen —e	178
in Lymphdrüsen ausgelöst —e	558
Oxytocin.....	658, 661, 671
Osteochondroma	887

P

Papilloma

— of the Epididymis	883
—tous changes.....	392
Periost a. intramyelare Injektion.....	172
Perikostaltuberkulose	1101
Perforation	
Geschwürs—	683
Phrenicusexhairese.....	1095
Popliteallymphdrüsen.....	562
Polarisierung d. Antikörperauslösung.....	966

Plexus brachialis	458
radikuläre Verletzung d. —	401
Pyothorax	458

R

Röntgen	
—bestrahlung	1115
Retikulosarkom	458
retroperitoneale —	893
Rindergalle	717
rhizotomy	392
Resektion des Ulcusmagens	541

S

Salben	
—immunisierung	557, 559, 560
Senföl	718
Schick-Probe	920
Schmerz	
heftige neuralgische —en	401
Spreading of Carcinoma Cells	531

T

Tumor	
Konvexitäts—	273
Parasagittal—	273
laterale Parasagittal—	274
Intraventrikuläre —	274, 278
Parasellar—	275

Schädelbasis—	276
Inflammatory — of Temporal Fossa	548
—en am hinteren Teile d. III Ventrikels ..	276
Trophoneurotic Gangrene	386
Tomograph	1095
Toxizität	
— d. Diphtherie-Anatoxins	915—
Transfusion	
— d. Konservierten Blutes	235

U

Unterschenkel	
Infektion des —s	562
Urocystographie	405

V

Vakzinen	
immunogene Avidität d. —	357
— u. Koktigenen	357
Ventrikel	
III —	273—
Vierhügeltumoren	277
Volvulus	
— des Ileocoecalteiles	535
Voluminin	
spezifischen — in Lungenparenchym ..	591—595
—erzeugung in i.v. immunisierten Lunge ..	598

投稿規定

- 本誌は毎年1月, 3月, 5月, 7月, 9月及び11月の1日に發行す。
- 原稿は歐文; 和文, 何れにてもよし。和文原著には歐文表題歐文抄録及び内容抄録(和文)を添附せられたく歐文原著には和文表題及び必ず和文抄録を添附せられたし(臨床原著も之に準ず)。
- 原稿の用語中, 固有名詞はすべて固有の文字を, 又數字はすべて羅馬數字を使用せられたく, 又「センチメートル」は厘を, 「グラム」は瓦を, 立方「センチメートル」は託を使用せられたし。
- 原稿中の挿畫, 曲線等は必ず原稿紙以外に更に別紙として墨汁又は製圖用「インク」にて書かれたし。歐文は「タイプライター」を使用せられたし。
- 原稿掲載して8頁迄は無代なるも, それ以上は1頁につき, 實費に準じて金5圓也以内を申受く。又附圖別表等の印刷はその實費を申受く。8頁以上の原稿にても, これを1回8頁宛に分割して掲載する事を承認せらるゝ場合は無代とす。
- 原稿の發表は到着順によるも, 急を要せらるゝ向は, 特別掲載料として1頁につき金5圓也以内の實費を申受け直ちに發表致すべし。
- 執筆者に於て, 別刷御希望の方は, 御寄稿と同時に特に附言せられたく, 10部迄は無代贈呈致すべきもそれ以上は但し最高50部實費を申受く。
- 原稿は京都帝國大學醫學部外科學教室, 外科實函編輯室宛, 御送附下されたし。

日本外科寶函	定價	部 一ヶ月分	金壹圓貳拾錢 金六	郵税不要 郵税不要
		會員ニシテ會費滞納ノ場合ニハ雜誌ノ配布ヲ停止ス 會員外ニシテ本誌講讀希望ノ方ハ直接本會又ハ賣捌所宛ニ申込マルベシ		
廣告料	廣 告 料	普 通 面	一 頁	金 拾 參 圓
		特 別 面	一 頁	金 貳 拾 圓
		表 紙	一 頁	金 參 拾 圓
		綴込廣告料	一 枚	金 拾 五 圓

廣告取扱 大阪市東區京橋三 福田商店廣告部

昭和十七年六月廿五日印刷
昭和十七年七月一日發行

京都市帝國大學醫學部外科學教室
編輯兼發行者 青 柳 安 誠
京都市中京區柳馬場通三條南入
印 刷 者 福 井 松 之 助
京都市中京區柳馬場通三條南入
印 刷 所 (西京3) 株 式 會 社 似 玉 堂
京都帝國大學醫學部外科學教室

發 行 所 日本外科寶函編輯室

(猪子・伊藤兩教授記念會)
振替口座京都 3691 番
日本出版文化協會 會員番號222221番

東京市神田區淡路町二丁目九番地
配 給 元 日本出版配給株式會社
東京市本郷區春木町三丁目
賣 捌 所 南 江 堂 書 店
電話小石川三五〇・振替東京一四九
京 都 市 中 京 區 寺 町 通 御 池 南
同 南 江 堂 京 都 支 店
電話本局二〇三〇・振替大阪一一五〇五
京 都 市 丸 太 町 通 河 原 町 東 入
同 國 井 書 店
電話上二九九七・振替大阪一七二七七

投稿規定

- 本誌は毎年1月、3月、5月、7月、9月及び11月の1日に発行す。
- 原稿は歐文、和文、何れにてもよし。和文原著には欧文表題欧文抄録及び内容抄録(和文)を添附せられたく、欧文原著には和文表題及び必ず和文抄録を添附せられたし(臨床原著も之に準ず)。
- 原稿の用語中、固有名詞はすべて固有の文字を、又數字はすべて羅馬數字を使用せられたく、又「センチメートル」は厘を、「グラム」は瓦を、立方「センチメートル」は珎を使用せられたし。
- 原稿中の挿畫、曲線等は必ず原稿紙以外に更に別紙として墨汁又は製圖用「インク」にて書かれたし。歐文は「タイプライター」を使用せられたし。
- 原著は原稿掲載して1頁につき、實費に準じて金6圓也以内を申受く。又附圖別表等の印刷はその實費を申受く。臨牀例は3頁までは無代とす。
- 原稿の發表は到着順によるも、急を要せらるゝ向は、特別掲載料として1頁につき金6圓也以内の實費を申受け直ちに發表致すべし。
- 執筆者に於て、別刷御希望の方は、御寄稿と同時に特に附言せられたく、10部迄は無代贈呈致すべきもそれ以上は(但し最高50部)實費を申受く。
- 原稿は京都帝國大學醫學部外科學教室、外科實函編輯室宛、御送附下されたし。

日本 外科 實函	定價	④ 一部 一ヶ年分	金壹圓貳拾錢 金六圓	郵税不要 郵税不要
		會員ニシテ會費滞納ノ場合ニハ雜誌ノ配布ヲ停止ス 會員外ニシテ本誌講讀希望ノ方ハ直接本會又ハ實捌所宛ニ申込マルベシ		
	廣告料	普通面	一頁	金拾參圓
		特別面	一頁	金貳拾圓
		表紙	一頁	金參拾圓
		綴込廣告料	一枚	金拾五圓

廣告取扱 大阪市東區京橋三 福田商店廣告部

昭和十七年十月廿五日印刷
昭和十七年十一月一日發行

京都市左京區聖護院中町四
編輯兼發行者 中 田 寛 治
京都市中京區柳馬場通三條南入
印刷者 福 井 松 之 助
京都市中京區柳馬場通三條南入
印刷所 (西京3) 株 式 會 社 似 玉 堂
京都帝國大學醫學部外科學教室

發行所 日本外科實函編輯室

(猪子・伊藤兩教授記念會)
振替口座京都 3691 番
日本出版文化協會 會員番號222221番

東京市神田區淡路町二丁目九番地
配 給 元 日本出版配給株式會社
東京市本郷區春木町三丁目
賣 捌 所 南 江 堂 書 店
電話小石川三五〇・振替東京一四九
京 都 市 中 京 區 寺 町 通 御 池 南
同 南 江 堂 京 都 支 店
電話本局二〇三〇・振替大阪一一五〇五
京 都 市 丸 太 町 通 河 原 町 東 入
同 國 井 書 店
電話上二九九七・振替大阪一七二七七

投稿規定

- 本誌は毎年1月、3月、5月、7月、9月及び11月の1日に発行す。
- 原稿は歐文、和文、何れにてもよし。和文原著には欧文表題欧文抄録及び内容抄録(和文)を添附せられたく、欧文原著には和文表題及び必ず和文抄録を添附せられたし(臨床原著も之に準ず)。
- 原稿の用語中、固有名詞はすべて固有の文字を、又數字はすべて羅馬數字を使用せられたく、又「センチメートル」は厘を、「グラム」は瓦を、立方「センチメートル」は珎を使用せられたし。
- 原稿中の挿畫、曲線等は必ず原稿紙以外に更に別紙として墨汁又は製圖用「インク」にて書かれたし。歐文は「タイプライター」を使用せられたし。
- 原著は原稿掲載して1頁につき、實費に準じて金6圓也以内を申受く。又附圖別表等の印刷はその實費を申受く。臨牀例は3頁までは無代とす。
- 原稿の發表は到着順によるも、急を要せらるゝ向は、特別掲載料として1頁につき金6圓也以内の實費を申受け直ちに發表致すべし。
- 執筆者に於て、別刷御希望の方は、御寄稿と同時に特に附言せられたく、10部迄は無代贈呈致すべきもそれ以上は(但し最高50部)實費を申受く。
- 原稿は京都帝國大學醫學部外科學教室、外科實函編輯室宛、御送附下されたし。

日本 外科 寶函	定價	④ 一部 一ヶ年分	金壹圓貳拾錢 金六圓	郵税不要 郵税不要
		會員ニシテ會費滞納ノ場合ニハ雜誌ノ配布ヲ停止ス 會員外ニシテ本誌講讀希望ノ方ハ直接本會又ハ實捌所宛ニ申込マルベシ		
	廣告料	普通面	一頁	金拾參圓
		特別面	一頁	金貳拾圓
		表紙	一頁	金參拾圓
		綴込廣告料	一枚	金拾五圓

廣告取扱 大阪市東區京橋三 福田商店廣告部

昭和十七年十月廿五日印刷
昭和十七年十一月一日發行

京都市左京區聖護院中町四
編輯兼發行者 中 田 寛 治
京都市中京區柳馬場通三條南入
印刷者 福 井 松 之 助
京都市中京區柳馬場通三條南入
印刷所 (西京3) 株 式 會 社 似 玉 堂
京都帝國大學醫學部外科學教室

發行所 日本外科寶函編輯室

(猪子・伊藤兩教授記念會)
振替口座京都 3691 番
日本出版文化協會 會員番號222221番

東京市神田區淡路町二丁目九番地
配 給 元 日本出版配給株式會社
東京市本郷區春木町三丁目
賣 捌 所 南 江 堂 書 店
電話小石川三五〇・振替東京一四九
京 都 市 中 京 區 寺 町 通 御 池 南
同 南 江 堂 京 都 支 店
電話本局二〇三〇・振替大阪一一五〇五
京 都 市 丸 太 町 通 河 原 町 東 入
同 國 井 書 店
電話上二九九七・振替大阪一七二七七